

## モデル事業（案）

2022年9月16日（金）

# こどもの政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する調査研究 本調査研究におけるモデル事業について〈全体像〉

目的：以下の2つの観点から、国の政策へのこども・若者の意見反映に関する仕組みづくりに活かす。

- ①様々な手法で行うことにより、意見聴取の手法等に関する課題を抽出する。
- ②「どのような仕組み／環境があれば、国の政策に対して意見が言いやすいか」をテーマとすることにより、国の政策への意見反映に関して、モデル事業に参加するこども・若者から意見を聴く。

## 広く公募し、こども・若者から意見を聴く

### 対面

小学4年～概ね20代

### オンライン

小学4年～概ね20代

### SNS

中学1年～概ね20代

### Webアンケート

小学4年～概ね20代

※全てのこども・若者を対象に、内閣官房HPにて広く公募。

※様々なルートで周知し、様々な状況にあるこども・若者の参加を呼びかける予定。

※上記学年は、こどもにとって分かりやすいよう表示するものであり、通学しているかどうかは問わない。

※別途実施する内閣府ユース政策モニターからの意見聴取の内容も共有。

## 個別に出向いて こども・若者から意見を聴く

- ・不登校のこども
- ・児童養護施設で生活するこども
- ・児童相談所一時保護所で生活するこども
- ・困難を抱える若者

※意見聴取の方法：対面又はオンライン

※関係省庁や関係有識者等の協力を得て実施。

## 有識者等からのヒアリング

○時間的・技術的制約から、本調査研究においては関係者からのヒアリング等を実施。

※乳幼児について、「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」に関する有識者懇談会における議論等を共有。

※医療的ケア児等について、関係有識者等からのヒアリング等を実施。

# モデル事業の前提

- 意見表明だけでなく、意見形成や意見反映についても考慮が必要。
- 4つの手法（対面、オンライン、SNS上での意見交換、Webアンケート）とし、各手法の特性を考慮。

## 対面

相手の表情が見える、  
場を共有することができる

## オンライン

参加者が地理的制約  
を受けにくい、移動が  
困難な事情があっても  
参加しやすい

## SNS上での 意見交換

子ども・若者にとって日常  
的なツールであり、顔が見  
えないことで、気軽な意見  
表明が可能。24時間いつ  
でも参加できる

## Webアンケート

回答者の匿名性を確保、  
多くの子ども・若者の意見  
を聴くことが可能、参加者  
の属性のバラつきを回避し  
やすい

- 目的は、子ども・若者がどのような環境や手法があれば意見を言いやすいのかを明らかにすること。
  - ✓ 意見を言う機会はある（と感じている）のか、どんな機会なのか、それは使い勝手が良いのか、どうい  
う機会・方法があったらいいのかなどを聴く。
  - ✓ 本調査研究の結果を踏まえ、子ども家庭庁において、子ども・若者の参加・参画のための仕組みを設  
ける。当該仕組みは、子ども家庭庁や関係府省が行う子ども政策が対象となる。

## 本調査の目的

子ども・若者がどのような環境  
や手法があれば意見を言い  
やすいのかを明らかにする

意見を聴くための仕組みを国  
が設ける

国が行う子ども政策全般で、  
仕組みを活用

# 【対面、オンライン】モデル事業の概要案

## (ア) 参加者の対象年齢、年齢層分布

- ✓ 小学4年生世代～概ね20代までの幅広い年齢層（各回30人）が同一会場、オンライン会議システムに参加。
- ✓ ただし、各回の小グループは年齢が近いこども・若者で構成する。

## (イ) 各回の参加人数、所要時間、開催日時

- ✓ 対面、オンラインともに、30人×2回開催。
- ✓ 1グループあたりのこども・若者の人数 1回目（4～6人※5～6グループ）、2回目（10～15人※2～3グループ）
  - 1グループの人数を少なくした方がこども・若者が話しやすい環境をつくることができる（＝意見がたくさん出る）と考えられるが、人数が増えても問題ない可能性もあるため、2回の形式を分けることでグループ内の人数について比較検証したい。
- ✓ 学校の授業（1コマ45分）を目安とした90分のプログラムを標準とするが、グループ内の人数が多くなる回や中高生以上で構成されるグループについては長めの時間設定（120分程度）とする。
- ✓ こども・若者の参加のしやすさを考慮し、開催日時は対面：日曜日の午後、オンライン：平日の夕方～夜とする。

## (ウ) 対話のテーマ

- ✓ 特定の政策テーマを対象とせず、「意見の言いやすさ」自体を題材とする。
  - 最終的な目的は、こども・若者がどのような環境や手法があれば意見を言いやすいのかを明らかにすること。特定の政策をテーマとすることにより、意見の言いやすさへの意見が特定の政策に引っ張られてしまわないようにしたい。

## (エ) 事前準備、当日の流れ、具体的な質問例

⇒（次頁参照）

## (オ) ファシリテーション時の留意事項

- ✓ チャイルド・セーフガーディング等のガイドラインを参考にする。（特に、こどもができることを大人が代わりにしないこと）
- ✓ こども・若者の意見の否定や誘導的な質問は避け、発言の深掘りをする。
- ✓ 差別的な発言をしない（こどもの意見を政策決定過程に反映させるためのプロジェクトであるということ、ファシリテーターの良い関与がこども・若者の参加・参画の保障につながるということを理解する）

# 【対面、オンライン】事前準備、当日の流れ、具体的な質問例

## ■ 事前準備

- 参加・参画することも・若者に対し、意見を聴く理由やモデル事業の目的について、事前に説明を行う

説明内容： ①子ども・若者の意見を聴く理由、②モデル事業の目的、③子ども家庭庁の役割

説明方法： 参加・参画することも・若者の拘束時間を増やさないような方法をとる

(例) 動画の事前視聴 (YouTubeの限定公開)、手紙の送付、など

## ■ 当日の流れ (合計90分)

経過時間	分	内容
0:00	10	開会のあいさつ、今日の流れ、グランドルールの共有 (安心安全な場づくりのための認識合わせ)
0:10	10	アイスブレイク/自己紹介
0:20	25	ディスカッション① 今ある身近な意見表明 個人ワーク (5分) シートに記入する形で自分の意見を整理する (意見形成支援)  ディスカッション (20分) 具体的な質問例： ➤ 今、学校でアンケートなど自分の意見を伝える機会はあるか？それはどういう手段 (アンケート、学活で手を挙げて発言するなど)、どのような頻度、名前が分かるか、生徒から集めた声のフィードバックはあるのか、その結果何かが変わったか。 ➤ 学校以外に、意見を伝える機会はあるか？例えば、児童館の運営、地域のスポーツ活動など ➤ 今ある仕組みで意見を伝えることはできているか。意見を言いたいと思うか。
0:45	10	休憩
0:55	20	ディスカッション② どのような仕組みがあったら意見を言いやすいか？ ➤ どんな場所、手段だったら自分の意見を言いたいと思うか？ ➤ 今日はどうして参加したいと思ったか？ ➤ ここに来ていない友達などの声を聴くにはどうしたら良いだろう？ ➤ (国の政策に限定せず) どんなところが変わったらもっと良くなると思うか？ など
1:15	15	子ども・若者から感想を聴く (数人)、(子ども・若者の感想を受けて) 子ども家庭庁設立準備室職員からのフィードバック、アンケートの記入
1:30		終了

# 【SNS】モデル事業の概要案

## (ア) 参加者の対象年齢、年齢層分布

- ✓ 中学1年生世代～概ね20代まで。
  - LINEオープンチャットを利用する場合、LINE社が提示するLINEの利用推奨年齢が12歳以上となっているため、中学生世代以上を対象とする。

## (イ) 各回の参加人数、所要時間、開催日時

- ✓ 30人×2回開催。
- ✓ 1グループあたりのこども・若者の人数 1回目（4～6人※5～6グループ）、2回目（10～15人※2～3グループ）
  - 1グループの人数を少なくした方がこどもが話しやすい環境をつくることができる（＝意見がたくさん出る）と考えられるが、人数が増えても問題ない可能性もあるため、2回の形式を分けることでグループ内の人数について比較検証したい。
- ✓ 1回あたり、7日間チャットルームを開設し、好きな時間・タイミングでコメントをしてもらう。
- ✓ ファシリテータが最低1日1回介入する。

## (ウ) 対話のテーマ

- ✓ 特定の政策テーマを対象とせず、「意見の言いやすさ」自体を題材とする。
  - 対面、オンラインと同じ理由。

## (エ) 事前準備、7日間の流れ、具体的な質問例

⇒（次頁参照）

## (オ) ファシリテーション時の留意事項

⇒対面、オンラインに準ずる。不適切なコメントを発見次第事務局にて対処する



# 【SNS】 事前準備、7日間の流れ、具体的な質問例

## ■ 事前準備

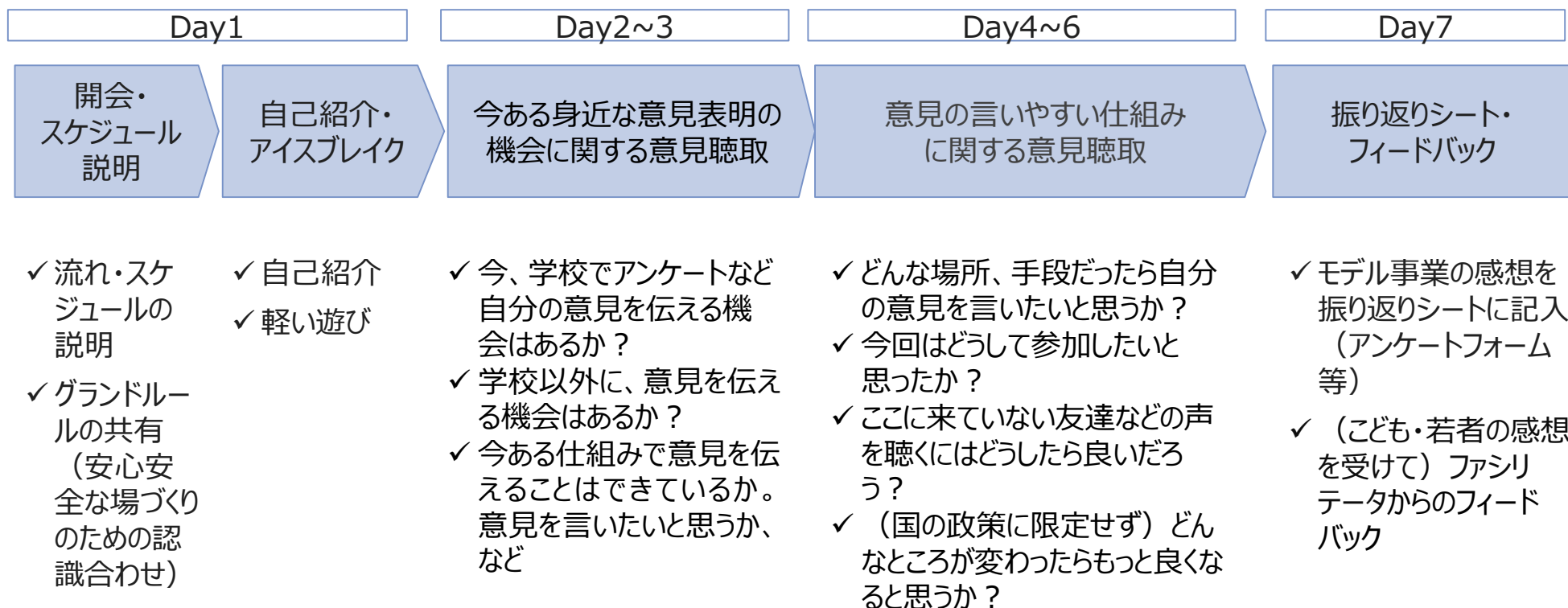
- 参加・参画することも・若者に対し、意見を聴く理由やモデル事業の目的について、事前に説明を行う

説明内容： ①子ども・若者の意見を聴く理由、②モデル事業の目的、③子ども家庭庁の役割

説明方法： 参加・参画することも・若者の拘束時間を増やさないような方法をとる

(例) 動画の事前視聴 (YouTubeの限定公開)、手紙の送付、など

## ■ 7日間の流れ (期間中、いつでもコメント可)



# 【Webアンケート】 モデル事業の概要案

---

## (ア) 参加者の対象年齢、人数

- ✓ 小学4年生世代～概ね20代まで、1,000人程度 ※1000人以上の場合でも受付可能とする

## (イ) 実施期間、アンケート実施方法

- ✓ 回答期間：2022年11月中の2週間
- ✓ 募集方法：内閣官房ウェブサイト、アンケートのURLを直接掲載し、回答を募る

## (ウ) 設問内容

- ✓ 設問数：15問
- ✓ 設問内容：対面、オンライン、SNSと同様に、「身近な意見表明の機会」、「どのような仕組みがあったら意見を言いやすいか」を軸に設問案を検討中。
- ✓ 形式：選択式設問が中心

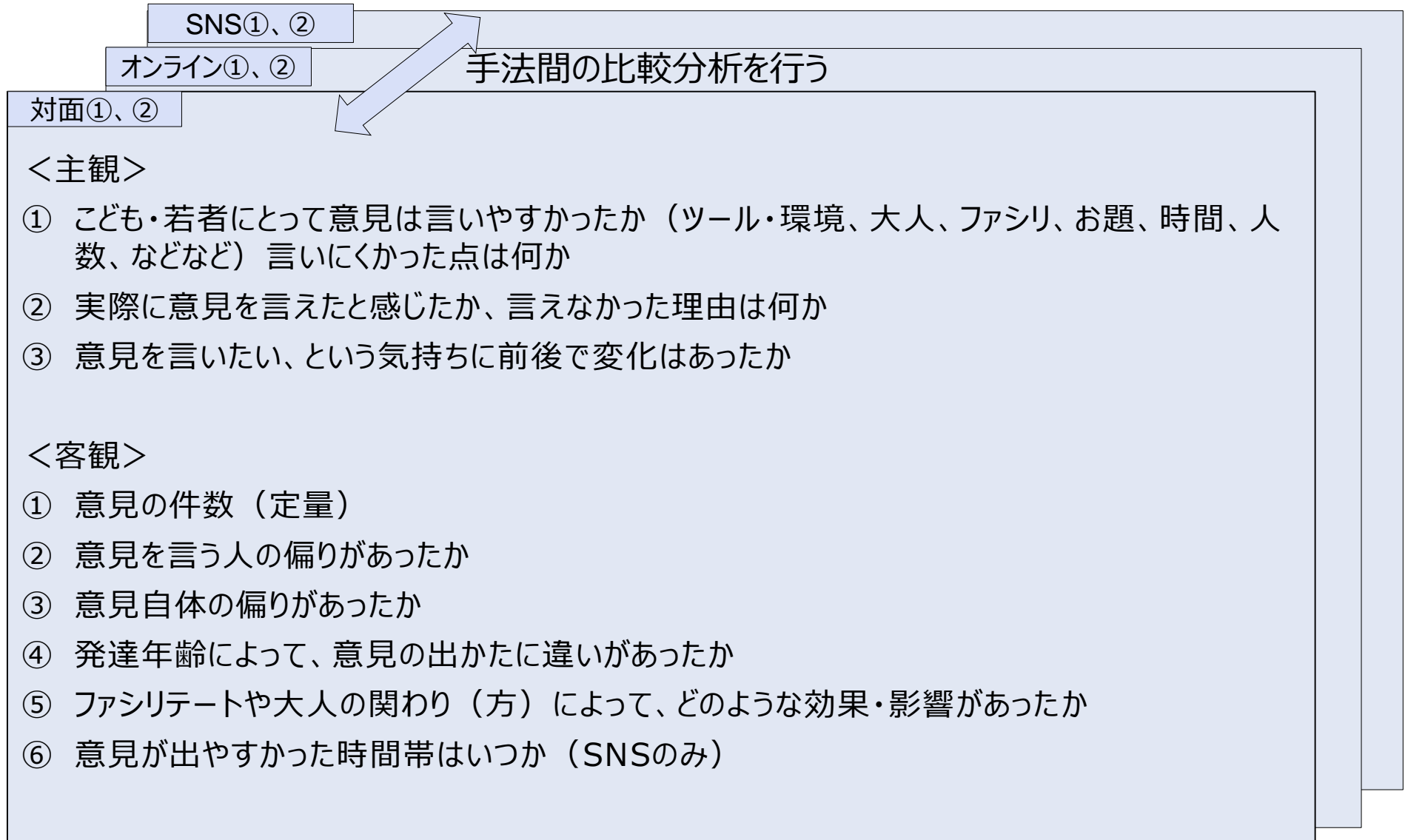
## (エ) 留意事項

- ✓ こどもの回答前に、必ず保護者の許諾ページを追加（アンケートに回答することに対する許可であって、こどもが回答するときにはひとりで取り組むように説明）
- ✓ チャイルド・セーフガーディング等のガイドラインを参考にする。



# モデル事業の検証方法

以下の9点について手法別に分析するとともに、手法間の比較分析を行う。



## (参考) モデル事業の全体像

対面2回、オンライン2回、SNS2回、Webアンケート（約1000人規模）、様々な状況にあるこども・若者を対象とした意見聴取を実施する。

	対面①	対面②	オンライン会議①	オンライン会議②	SNS上での議論 ①	SNS上での議論 ②	アンケート	児童養護施設等
実施方法 (How)	ワークショップ		Microsoft Teams		LINEオープンチャット		Webアンケート	調整中
ファシリテータ	NPO法人アークコーダ（登録しているファシリテータ）							調整中
目的・役割 (Why)	こども・若者がどのような環境や手法があれば意見を言いやすいのか、を明らかにする							
取り扱うテーマ (What)	1回目と2回目で小グループあたりの人数を変える							
	どのような仕組みがあつたら意見を言いやすいか？							
参加者 (Who)	グループA 小学4年生世代～ 概ね20代 (合計30人) 発達段階ごと小グループ5人×6	グループB 小学4年生世代～ 概ね20代 (合計30人) 発達段階ごと小グループ10人×3	グループC 小学4年生世代～ 概ね20代 (合計30人) 発達段階ごと小グループ5人×6	グループD 小学4年生世代～ 概ね20代 (合計30人) 発達段階ごと小グループ10人×3	グループE 中学1年生世代～ 概ね20代 (合計30人) 発達段階ごと小グループ5人×6	グループF 中学1年生世代～ 概ね20代 (合計30人) 発達段階ごと小グループ10人×3	グループG 小学4年生世代～ 概ね20代： (合計1000人)	調整中
実施時期 (When)	11/13 (日) 15時～16時半	11/27 (日) 15時～17時	11/17 (木) 17時～18時半	11/18 (金) 17時～19時	11/15 (火) 17時 ～11/21 (月) 19時		11/16(水)～ 11/29(火)	調整中
実施場所 (Where)	(株)NTTデータ経営研究所 会議室 (永田町)		オンライン					調整中
募集方法	内閣官房HPにて実施予定（10月開始予定）。 内閣府ユース政策モニターへの周知のほか、関係先へ周知を行う。							調整中
その他	※参加者への謝金支払い無し。 ※各回の人数の上限を超えた場合には、事務局にて参加者の調整を行う。							調整中